

地域環境を創造する酪農体系の確立を目指して

北海道名寄産業高等学校 酪農科学科 2年 平間 健太

名寄市街地と、下川町の中に位置する名寄市中名寄地区。私の家はそこで、経産牛280頭、育成牛80頭、草地面積120haを所有し、法人経営で酪農業を営んでいます。幼い頃から牛舎での仕事を手伝い、仕事の合間に父と共に家のそばを流れる名寄川で川遊びや釣りなど、自然の中での遊びを楽しんでいました。私は生まれ育った、この自然あふれる中名寄が大好きで、将来はこの中名寄での酪農経営地盤を父から受け継ぎ、法人の経営者として、家業を継ぐと決めています。

私の住む中名寄地区は南北を緑豊かな山に囲まれ、北側の山裾を東から西に清流名寄川が流れる自然あふれる豊かな農村地帯です。ニジマス、イワナ、ヤマメなどや、個体数の減少が危惧され道内では河川での釣りが全面的に禁止されている在来種のサクラマスも豊富に生息している名寄川。中名寄の地域は開拓当初から名寄川との関わりが大きく、度重なる氾濫で土壌被害を受けることもありましたが、この川の恩恵を受け、先人達はこの地を開拓してきました。

そんな、名寄川流域で酪農を営む我が家は、法人立ち上げの際から今まで、名寄川流域の肥沃な土地に恵まれ、良質な牧草生産を行うことができるなど、河川の恩恵を十分に受け、経営を発展させてきました。

しかし、この名寄川は現在在来種のサクラマスの遡上が減少していることが確認されています。理由は酪農です。酪農が河川の汚染を引き起こし、この地の生態系を壊し、その結果、希少な野生動物や魚たちが住めない環境を作ってしまったことに強い危機感を感じています。

平成24年の水質調査の結果を見ると、窒素、リン、CODおよび大腸菌の4項目において非常に数値が高く、汚染が深刻であることがわかります。

法人経営で大規模な酪農経営を行っている我が家が、地域のモデルとなる環境保全対策を行う必要があるのではないか。地域全体の酪農家が名寄川の保全を取り入れた酪農経営にシフトできる活動を実践する必要があるのではないか。そう考えるようになったのです。

地域環境を創造する酪農経営を目指し、幼い頃から私を育ててくれた名寄川の環境をもう一度取り戻したい。河川の汚染が引き起こされる要因は、牧草地などへの過剰な堆肥の投入や、家畜の糞尿などの余剰流入などだと考えられます。そこで、名寄川を守り、地域の酪農家の先駆者として環境を創造する酪農経営を行うために2つの具体策を立てました。

現在我が家の会社では、バイオガスプラントを所有しています。我が家では1日に30立方メートルの糞尿が排出されており、その糞尿をバイオガスプラントで全てメタン発酵処理しています。実際に我が家では糞尿の河川への流入は阻止されている状況ではありますが、近隣の家族経営の酪農家は糞尿の処理に課題を抱えており、河川への流入が懸念されます。

そこで1つ目の対策は、我が家のバイオガスプラントの稼働状況を地域の酪農家に公開し、見学してもらう活動を実践することです。まずは、名寄川流域で酪農行う経営者に地域環境の創造に対する一つの提案として、我が家のバイオガスプラントの稼働状況を理解してもらいたいと思っています。しかし、全ての酪農家がこのプラントを所有することは不可能です。そこで、環境を創造する酪農のパイオニアという立場に立ち、我が家のバイオガスプラントをレンタル利用してもらえるシステムを構築したいと考えています。我が家は糞尿を発酵する際に生成されるバイオガスを燃焼することで、電気を作り1日に約1,700キロワットを売電し収入を得ています。地域の酪農家の方々にレンタル利用してもらうことで、糞尿の河川への流出量を最大限に減らし、汚染数値を減少させられるのではないかと考えています。そして、生産した消化液を、協力してくれた酪農家に還元し、牧草地への散布を行い、さらに良質な牧草生産を行います。バイオガスプラントでの糞尿処理を地域全体に積極的に進めることで、牧草地への過剰な堆肥の施肥を阻止することにもつながると私は考えます。

また、環境保全に対して興味を持っている若い酪農家に向け、研修施設として、我が家のバイオガスプラントを活用してもらいたいと考えています。現在名寄産業高校酪農科学科の同級生が、将来の自営に向けて施設見学に来るなど、私の考える環境保全型酪農が少しずつ動き出していることを実感しています。

2つ目は名寄川流域の酪農家での情報共有を実践するための「会」の立ち上げです。河川の水質調査結果、豪雨の際の渇水被害の状況など、名寄川流域の酪農家だから抱える課題などの話し合いを行える会を設けたいと考えています。

そのために私は現在、農業クラブの執行部として積極的にリーダーとしてクラブ員を引っ張り、行事の運営等を行っています。私が考える地域環境を保全する活動を広げるためにも、そして、経営者として法人を引っ張っていくためにも、やはり人との積極的な関わりやリーダーシップが必要だと日々感じています。農業クラブ活動で身につけた人との繋がりを大切にして、地域環境を創造する酪農家が増えるように、頑張りたいと思っています。

自然を壊すのも、そして自然を守るのも全て人間の力であると私は考えます。環境保全型酪農を地域に広げるためには、周囲との協力や、組織化など、目的を集団で共有することが

大切だと農業クラブ活動を通じて日々実感しています。今後は、地域のリーダーとして活躍できるよう、さらに酪農に対する知識や技術だけでなく、周囲から信頼される人間性に磨きをかけ、環境保全型酪農の推進に努めていきたいと考えています。

名寄川が作り出す肥沃な大地と、そして人々を魅了する壮大で豊かな自然。私たち中名寄地区の酪農家は、昔から名寄川に守られて酪農経営を行ってきました。

今度は私たち酪農家が、この清流名寄川をよみがえらせ、守っていかなければならないのではないのでしょうか。名寄川というたった一つのかげがえのない自然を守る酪農。そしてこの自然をさらに豊かにし、共存できる酪農。

私は、経営者として地域の環境を創造する酪農体系を地域全体で作ることを目指します。
